

(前回) 第16回 山のトイレを考えるフォーラム記録

山のトイレを考える会

- 2015年3月14日(土) 15:00~18:00
- 北海道道民活動センター「かでの2・7」。参加人数:54人
- テーマ「美瑛富士トイレ問題~ついに山は動き出した」
- プログラム

1. 開会挨拶	山のトイレを考える会代表 岩村和彦
2. 山のトイレを考える会活動報告	山のトイレを考える会 仲俣善雄
3. 美瑛富士の携帯トイレ導入について~道内外の事例から考える	
・山のトイレを考える会副代表	小枝正人
・道央地区勤労者山岳連盟理事長	沼田祐司さん
・美瑛山岳会理事長	内藤美佐雄さん
・環境省東川自然保護官事務所	岸田春香さん
・早池峰にゴミは似合わない実行委員会代表	菅沼賢治さん
・利尻富士町産業建設課商工観光係長	八森大介さん
・様似町商工観光課アポイ岳保全係長	坂下志朗さん
4. 道内各地からの報告	
・黒岳バイオトイレの管理状況	上川総合振興局環境生活課主査 端場強実さん
・羊蹄山の土壌処理方式トイレ	山のトイレを考える会 仲俣善雄
5. 総合討論	
司会/進行 山のトイレを考える会事務局長 愛甲哲也	

1. 美瑛富士携帯トイレ導入の経緯と今後の進め方 (山のトイレを考える会 小枝正人)

■トイレ設置から携帯トイレ導入に方向転換

美瑛富士は避難小屋があり野営指定地でもあるのに唯一トイレがない所でティッシュや汚物が散乱、裸地拡大等山岳環境悪化が懸念されていた。当会設立時からの懸案事項。毎年、いろいろな団体が清掃登山をするのが、実態は繰り返されていた。当会でも2004年清掃登山実施。その後、トイレ設置要望の署名活動を実施。約27000筆を集め、環境省と北海道に提出。フォーラムでは何度も議論し、美瑛富士に似合うトイレも提案した。しかしトイレ設置後の維持管理の困難性もあり15年間解決できずにいた。当会は昨年、携帯トイレ導入に舵を切ることとした。

■美瑛富士トイレ管理連絡会の設立

携帯トイレブースの維持管理、点検パトロールを北海道山岳9団体で分担して実施する「美瑛富士トイレ管理連絡会」を2015.3.14に設立した。2015年は試行実施。環境省がテント型携帯トイレブース、山のトイレを考える会で携帯トイレ回収ボックスを白金観光センターに設置することにした。使用済み携帯トイレは美瑛町で処分する仕組みとした。

■地元の皆さんの協力がないと成功しない

地元の皆さまに携帯トイレについて知っていただき、協力を得るために、2015.3.11環境省主催で美瑛町にて白金温泉旅館組合などの地元の皆さまを対象に勉強会を開催。

現在、山岳9団体の賛同を得ているが、大雪山パークボランティア連絡会が賛同団体として加わる予定。個人での点検パトロールは傷害保険の関係で山のトイレを考える会の会員に一度登録してから参加してもらうことになる。

利尻山や知床よりも美瑛富士やオプタテシケ山の登山者数はかなり少ない。登山者全員がキチント携帯トイレを使用した場合は1シーズン約400個と推定している。

2. 札幌の山岳会も山岳環境保全に積極的に協力したい

(道央地区勤労者山岳連盟理事長 沼田祐司さん)

連絡会に参加することにした。今年から北海道の山岳環境を守るためにいろいろな仲間と活動していきたい。道央地区は20の山岳会があり、会員数は約700名。地元の山岳会は笹刈りをしたり、登山標識を立てたり、清掃をしたりして安全に登山ができるように活動しているのに、札幌の山岳会は大雪、十勝、日高などの山に登って温泉に入って帰ってくるだけ。前からこれでいいのかと疑問に思っていた。一昨年9月、美瑛富士の清掃登山に参加、実際に惨状を見て考え方が変わった。いつまでも山登りを楽しむために山岳環境を守っていかねばならない。そのように思っていた時に山のトイレを考える会から連絡会への参加要請があり、渡りに船だった。登山道整備にも協力していきたい。

3. なかなか進展しなかった美瑛富士トイレ問題

(美瑛山岳会理事長 内藤美佐雄さん)

■旧避難小屋について

S28(1953)年に北海道営林局が建設。私どもが関わったのはS50年代から。平成に入ると老朽化が酷く、小屋はあばら屋それに続く道はウンチ街道と新聞で報道された。縦走かオプタテシケ山の宿泊施設。50年代は登山者のマナーも悪かった。ハイマツを切って焚き火をする。ゴミは小屋にあるスコップを使って埋めていく。おそらく小屋前のテントサイトの地中はゴミだらけと思う。床下修理で床を剥がした所、ゴミだらけ。惨憺たる状況だった。H8(1996)年ドアも壊れた。

■現在の避難小屋について

その後、プレハブの小屋を建設。当時、営林署の財政もよくなく、美瑛町が北海道の補助金を得て建設した。その時のトイレ併設の場所も決まっていたが、美瑛町で維持管理の費用が負担できないということで設置には至らなかった。

■地元の理解を深め、協力を得て携帯トイレを普及したい

あまりメジャーでない山なので、町民自体も美瑛富士に避難小屋があることを知らない人が殆ど。町民が殆ど利用しない小屋にトイレを設置し、維持管理に町民の税金を使うことは理解が得られない。現実的に山のトイレを考える会に協力できなかった。やっと今回、前進できたことに敬意を表したい。先日、利尻、知床の先進事例も聞きながら地元の関係者が集まり勉強会を開催した。地域が協力して登山者に携帯トイレの利用普及を図らないと、なかなか利用してくれない。関係機関と協力しながら、携帯トイレの普及を図りたい。

(愛甲) 本来は登山口に携帯トイレ回収ボックスを置くとよいが、町の清掃車がそこまで行かないので、白金観光センターのトイレ裏に置くことにした。

4. 2015年の試行実施を成功させたい

(環境省東川自然保護官事務所 岸田春香さん)

■環境省は国立公園の管理を協働型で進めたい

環境省は国立公園の管理を協働型で進めたいとの思いがあり、いろいろな取組みを進めている。大雪山に関しても美瑛山岳会をはじめとして地元の山岳会の協力を得て、登山道を維持管理する取組みを進めている。

■地元以外の方が協力して維持管理する画期的な取組み

昨年、美瑛富士に登って、ティッシュや排泄物散乱の惨状は見てきた。今回、道内の山岳団体が集まって維持管理していくと言う話は、今、私たちが進めている地元の山岳会さんとかいろいろな団体と協働型の管理を進めているが、その一歩先、地元以外の他の地域から協力をいただける協働型は新しく、画期的な内容だった。

環境省としても管理計画で野営指定地にはしているにも関わらず、美瑛富士の惨状はどうにかしなければならぬと言う問題意識はあった。今回の提案が功を奏し、環境省として検討した結果、ブースを設置することにした。

■美瑛富士にあった仕組みにしたい

利尻や知床が成功した要因として登山道が限られている、日帰りが多い、地元の方々の大変な協力があったと聞いた。大雪国立公園は広大で神奈川県ほどあり、約300kmの登山道が走っている。美瑛富士も白金登山口以外からも到達でき、いろいろな利用形態が考えられる。2015年は試行段階と感じている。試行錯誤しながら美瑛富士にあったやり方を見つけて行きたい。環境省としても協働型管理の新しい形として非常に期待していますし、私たちも皆さんと協力しながら是非、成功するようにやっていきたい。

(愛甲) 携帯トイレブース設置、回収ボックス設置を6月下旬までに実施。撤収は9月下旬を予定している。やってみないと分からない。皆さんのご協力をお願いしたい。

5. 早池峰が携帯トイレ専用の山になるまで

(早池峰にゴミは似合わない実行委員会代表 菅沼賢治さん)

■排泄物の担ぎ下ろしを22年間実施

日本百名山の早池峰は1917m。山頂トイレのし尿の担ぎ下ろしを22年間続けながら携帯トイレ使用の呼びかけを行った。

登山者数は平成元年(1989年)43,000人。近年は2万人位で推移している。登山道の荒廃、ゴミ投棄、高山植物の盗掘、山頂トイレのし尿投棄と多くの問題を抱えていた。山頂トイレの便槽は穴を開けてあり地下浸透式。溜まった汚物は汲み取りして、山頂付近に撒いていた。これを続けていたら早池峰の自然環境は大変なことになると有志5人で担ぎ下ろしを提案し、山仲間呼びかけた。1993年11月13日、河原の坊登山口に8人が集結、担ぎ下ろしが開始された。一斗缶、ビニール袋、柄杓、ゴム手を用意して作業開始。便槽の中は肥溜めではなく、ゴミ溜め化。ビニール袋、空き瓶、空き缶、弁当の殻、整理用品などで惨憺たる便槽だった。

1993年～2014年6月まで、参加者2,117名、し尿9,446kgを担ぎ下ろした。

■携帯トイレを提案したが一笑された

1993年の翌年に沢水の検査で大腸菌が検出。トイレとの因果関係は突き止めることは出来なかった。その4年後に岩手県自然保護課に、今までの担ぎ下ろしの状況報告と早池峰の自然環境に似合うトイレの改善を要望した。同年11月に県はTSS土壌処理方式で改築したいとの説明会があった。いかにも早池峰の自然環境に似合ったトイレの様に聞こえたけど、いくつかの不安があった。早池峰は岩山。工事では大型機械が必要で貴重な高山植物が踏み躪られる。最終処理装置まで露出配管20mあり景観が損なわれる。最終処理装置から出る窒素やリンによる環境への悪影響を心配した。私たちはそのようなトイレを導入せず、利用者のマナー啓発を兼ねて、携帯トイレを導入できないか提案した。その時代は携帯トイレはメジャーでなかったので、「そんなバカなことは出来るわけない。夢だ、理想で現実的でない!」と大いに笑われた。

■岩手県の下承を得て、流れは携帯トイレ導入へ

私たちは早池峰の自然環境を改変させたくないと言う思いで、トイレ改修工事を行うよりも、今早池峰で生じている様々な問題を様々な視点から話し合う場を設けて欲しいと岩手県に要望した。岩手県は了承し「早池峰地域保全対策懇談会」を立ち上げてくれた。懇談会は2年間で現地調査を含めて10回行われた。その間、私たちは山頂トイレのし尿が溢れないように担ぎ下ろすから便槽の穴を塞いで欲しいとお願いし実施してもらった。それ以来今日まで一度もし尿を漏れ出すことはなかった。山頂トイレの耐用年数が後10年。その間にし尿の担ぎ下ろしと携帯トイレの呼びかけを岩手県の主体事業で行う。さらに山頂トイレに携帯トイレ専用室を設けることを提言に盛り込んだ。

■ついに早池峰は携帯トイレ専用の山へ

この10年間に利用者の検証をしながら、トイレのあり方を考える話し合いが必要であることから、懇談会の代わりに「早池峰地域保全対策事業推進協議会」が立ち上がった。早池峰におけるパートナーシップの始まり。2002年、山頂に携帯トイレ専用室を設けた。2穴+男性トイレ。男性トイレを改築して専用室に

した。岩手県が募集した「早池峰グリーンボランティア」と行政とのパートナーシップによる「早池峰グリーングリーンキャンペーン」が始まった。シャトルバスを利用する登山者にマナーガイドを手渡し、出発前にトイレの案内や山頂トイレのし尿はボランティアで担ぎ下ろしている、なるべくトイレを使用せず携帯トイレを使ってくださいと呼びかけを行った。

呼びかけ当初は携帯トイレを利用する人が周囲を気にしながらという雰囲気だったが、徐々に既存トイレを利用する人が周囲を気にすると言った逆転現象が現れた。その事を受け2005年にもう一室増やした。携帯トイレは1個350円、利用しない人は無料。この不公平感もあり、2009年から全て専用室にする日を設けました。2009年2日間、2010年7日間、2011年30日間、2012年121日間、2013年からは全ての日を専用室としました。

■携帯トイレの入手し易い環境作り

携帯トイレの販売は当初監視員にお願いしたが、監視員の通常業務でない上に金銭を扱うのはいかなものかとの指摘を受け、「早ゴミ」「グリーンボランティア」の有志で携帯トイレ管理組織を立ち上げた。立ち上げと同時にウィークディ対策として「携帯トイレ販売ボックス」を3箇所を設置。今まで鍵は壊されたことはない。2011年1472個、2012年2087個販売。早池峰においての理解度が高まっている証と感じている。「未来へ残そう！早池峰の自然、携帯トイレのご準備を」の旗を各登山口や無人販売ボックスに立てPRをしている。

■携帯トイレの回収数

さらに2009年に登山口に仮設トイレを設置。野外排泄対策として一番利用者が多い小田越の樹林帯にテント型ブースも設置した。携帯トイレ回収ボックスは4箇所を設置。毎週月曜日に契約業者が回収している。2011年度383個、2012年度627個、2013年度1589個、2014年度1311個（秋に荒天が続いた）回収した。

■終わりに

問題の当事者は我々登山者であるにもかかわらず、見て見ぬふり、知らぬふり。挙句の果ては、有料でもいいからもっと綺麗なトイレを作って欲しいと利便性を求める。登るだけ、楽しむだけでなく、今自分が登ろうとしている山に与える負荷を最小限にする登り方やトイレに意識を持たなければならない。自然への感謝畏敬の念を持つべきと思う。

6. 利尻山の携帯トイレ利用状況と課題

(利尻富士町産業建設課商工観光係長 八森大介さん)

■今までの経緯

2003年1万人超の登山者。その後減少傾向にあり近年は約7800人。1990年頃から山のトイレ問題が顕在化。1999年に利尻富士町、利尻町が携帯トイレ導入の検討開始。2000年にテント型携帯トイレブース設置。2002年FRP製、2007年環境省によって木製ブースを鴛泊コース4基、杓形コースに2基設置。2000年～2005年にかけて携帯トイレ無料配布実施。現在は一袋400円で島内宿泊施設、商店、コンビニ、キャンプ場、観光案内所等で販売している。回収ボックスは登山口に設置されており、定期的に回収している。

■課題

利尻山はリピーターが少ない。役場や環境省の担当者が数年毎に変わるので、携帯トイレ普及に向けた取り組みが持続せず、山のトイレデーでもティッシュ痕が無くならない。2012年68箇所、2014年21個（荒天で7合目まで）。携帯トイレの投げ捨て、置き捨ては2014年5個あった。

■解決に向けた取り組み

2012年登山シーズンの後に環境省の呼びかけで林野庁、利尻富士町、利尻町、山のトイレを考える会利尻支部、島内のガイドが集まり情報交換会をシーズン前後に年2回開催することにした（以前からあったが

定期開催でなかった)。

2014年の登山シーズンに向け ①フェリー船内やターミナル等に携帯トイレの利用呼びかけポスターを改めて掲示 ②島内の宿泊施設に対して研修会を開催、携帯トイレの販売や宿泊者への周知徹底をお願い ③ツアー会社やアウトドア用品店等に携帯トイレの普及に向けて協力を呼びかける文書を発出した。

■登山道荒廃への取り組み

利尻山は登山道の荒廃も課題。上部は火山性のスコリアと言う地質で脆い。「利尻山登山道維持管理連絡協議会」で毎年登山道の補修作業を行っている。丸合目から歩き難い。丸太で階段を造っている。2005年から試行錯誤の補修作業を続けてきた結果、近年は土留箇所から植生が回復するなど効果が出始めてきた。

7. アポイ岳の携帯トイレ利用状況と課題

(様似町商工観光課アポイ岳保全係長 坂下志朗さん)

■今までの経緯

登山者数は1997年14,318人でピーク。その後減少傾向が続き2014年(4月~12月)6,943人。

S30年代後半、五合目にトイレを設置したが、老朽化不衛生と言う指摘があり1992年に撤去。それ以降も登山者は増え続け環境悪化。ヒダカソウの大量盗掘があった1997年に「アポイ岳ファンクラブ」が立ち上がり、トイレについても考えるようになった。当初は固定式トイレ設置を想定したが、し尿処理の人員確保が困難と言うことで断念。バイオトイレも電気がないので断念。その後、携帯トイレに注目、先進地である利尻や羅臼で現地調査、2013年6月からスタートした。

■携帯トイレ導入の現状

五合目の小屋近くにテント型トイレブースを2基設置。一箇所に目隠し用の衝立をしている。回収ボックスはビジターセンター横に設置。携帯トイレはビジターセンターにて1セット500円で販売。ブースの管理は盗掘防止パトロール隊員が登山した序に清掃等の維持管理をしている。ブース内には緊急用の携帯トイレも置いている。

2014年、ブースは4月12日設置。11月6日撤去。携帯トイレの回収数は131個。回収率9.4%。販売個数は151個。啓発用無料配布44個。

パトロール隊から「そのまま用を足していた」「ゴミが散乱」「ブースの周り水溜り」「便座がよごれていた」「回収ボックスにゴミ投棄」「テントのファスナーが開きっぱなし」等の報告があった。

■改善に向けた取り組み

①麓の駐車場や登山口に目立つ案内板を掲示 ②携帯トイレキャンペーンでアンケート調査を実施 ③アポイ山荘、コンビニ、観光案内所等で携帯トイレの販売、無人販売ボックス等で入手の機会を増やす取り組み ④携帯トイレブース管理主体の明確化 ⑤盗掘防止キャンペーンに合わせたPR。幼稚園、学校登山での携帯トイレ無料配布、団体ツアー登山者への周知を引き続き実施

8. 黒岳バイオトイレの管理状況 (上川総合振興局環境生活課主査 端場強実さん)

■上川総合振興局で管理している施設

避難小屋4つ…白雲岳(1975年)、上ホロ(1980年)、忠別岳、旭岳石室(2001年)。トイレは14…白雲、上ホロ、忠別岳、大函、銀河流星滝、層雲峡野営場、黒岳、高原温泉、石北峠、勇駒別駐車場、天人峡(※1)、白金温泉駐車場、望岳台(※2)、吹上温泉。遊歩道…高原温泉沼巡りコース、天人峡。登山道(主なもの)…黒岳、旭岳、富良野岳、十勝岳に至る登山道。野営場…層雲峡。ビジターセンター…旭岳。

※1：天人峡の遊歩道は2013年土砂崩れで通行止め。安全対策を進め再開したい。

※2：望岳台トイレは外観、衛生的にも厳しい状況。隣のレストハウスからトイレに使う水をもらっていたが、2014年レストハウス休止。今は道で水の運搬契約をしている。

■黒岳トイレ運用状況及び今後の改善にあたっての検討事項
内容については、フォーラム資料集P43を参照願います。

9. 羊蹄山土壌処理トイレの現地調査を実施して (山のトイレを考える会 仲俣善雄)

内容については、フォーラム資料集P68「羊蹄山避難小屋土壌処理トイレの維持管理について」を参照願います。

また、避難小屋管理人の近藤英輝さんからも「羊蹄山のトイレレポート」と題して報文をいただいています。資料集P63に掲載しています。

【総合討論】

黒澤 (山のトイレを考える会) …黒岳トイレのオガクズ掻き出し作業に2回参加した。し尿を詰めたビニール袋をヘリで搬出する10月上旬までトイレ裏に積んで仮置きしている。上に積んだ重みで下の袋からし尿が漏れ出て非常に汚い。改善できないか。早池峰でトイレを携帯トイレ専用ブースに変えたが、こう言った施策はとれないか？

端場さん (上川総合振興局) …スペース上かなり無理があるが極力平積みする様スペースの確保を検討したい。袋詰めに結束バンドを使うようになってから漏れは少なくなった。トイレ室を携帯トイレブースにする話もあったが、果たしてトイレがあるのに現実に使う人がいるか？内部的な協議の中でやめた経緯がある

愛甲 (山のトイレを考える会) …固液分離をすればオガクズ交換回数が減らせることは検討してきた。ただ、工事にお金がかかるし、本当にうまくいくか確証が持てない。トイレ室を大便専用にする実験をして検証する方法もある。

菅沼さん (早ゴミ) …既存のトイレがある所で携帯トイレはなかなか難しい。いきなり携帯トイレ専用にすることはできない。既存のトイレと併用しながら利用者に訴えかける。それしかない。利用者のマナーに訴えするしかない。是非、諦めずに4つのブースがあれば、一つから始めてみてください。

愛甲 (山のトイレを考える会) …黒岳バイオトイレができる前の旧トイレの時代に大雪山で携帯トイレも無償配布をした。その時に試験的にテント型携帯トイレブースを設置したことがある。

愛甲 (山のトイレを考える会) …利尻は導入してから10年経って所持率70%。羅臼に導入した初年度のアンケート結果は携帯トイレ所持率38%。昨年銀冷水に固定式携帯トイレブースができた。昨年の所持率は50%とアップした。

野川さん (上川自然保護官事務所) …羅臼に私が勤務していた時はテント式ブースで所持率も使用率も変わらなかった。利尻の時も同じ。テント式からFRP製になった時から急に変わった。美瑛富士はテント式ブースですが、初めから完全でなくても、その仕組み、システムとして運用できることを確認することに重点を置くとよい。

- ①登山者が携帯トイレとは何か知る
- ②使い易い仕組みを準備する
- ③地元の方にもPR、理解を深め協力していただく
- ④実施
- ⑤入手方法、使い方のPRを地道にやっていく
- ⑥うまく運用できることを確認
- ⑦固定式ブースに変える

そうした時に成果として目に見えて進歩するのではないかと思う。

野川さん (上川自然保護官事務所) …大雪山は広大で登山道も長く交錯している。もし、大雪全体に携帯トイレを導入するには、それなりの戦略を考えないといけない。広域になるとそれを繋ぐ作業が大変。それにチャレンジすることは必要と思う。関係市町村も多く、それらに了解を得る労力、住民の皆さまに理解していただく労力、全国の登山者へのPRなど仕組みを作る労力は相当なもの。果たしてそれができるのかどうか不安があり躊躇する。環境省と振興局が共有しあいながら検討していくといいのかなと思う。

愛甲（山のトイレを考える会）…トムラウシ山南沼野営地の携帯トイレブースが傷んできた。十勝総合振興局の所有だが、これからどうやって維持するのか問題になってくる。

坂下さん（様似町）…アポイ岳のブース、衝立の設置費用は様似町で支出。衝立はシーズン後もそのまま。風は強くない所なので2年は持っている。

愛甲（山のトイレを考える会）…便座に直接排泄されるのを防ぐ対策はいろいろと実施している。羅臼の固定式ブースは「逆襲型」と言って、大便を直接すると自分の足にそれが流れてくる仕組みとなっている。

岩村（山のトイレを考える会）…美瑛の点検パトロールは週1回の頻度が理想であるが、9団体では2週間に1回程度になる。7月中～8月中、9月中は登山者が集中するので、汚れる心配がある。ブースの点検はある意味一人でも可能で大袈裟なことではない。周りにこの話をさせていただいて、協力していただける団体とか個人が増えることにより密度の濃い管理ができる。

岩村（山のトイレを考える会）…いろいろな山域で携帯トイレ利用促進が進んできた。いっそうの事「北海道は携帯トイレの推進県」と知事に打ち出してもらって、イメージ作りをやっていただきたいと思う。「北海道に行ったら携帯トイレを使わなくてはならないんだ」と。利尻のイメージで北海道全体に広めれば、その分ブースや回収ボックスの設置が増えるが、汚物が集中する所は限られるから、是非イメージ作りやってもらいたい。環境省とか北海道の行政の方の力によることが大きいと思うので、是非やっていただきたい。

愛甲（山のトイレを考える会）…大雪山の登山道、避難小屋等の維持管理に携わっている団体をリストアップしてみた。すごい数の団体、個人、山岳ガイド、我々みたいな団体関わっている。大雪山登山道300kmの半分は正式に事業が行える区間になっていない。正式な法律上の維持管理者がいない状況。表大雪は環境省、北海道、森林管理署とかで維持管理している状況。十勝、東大雪は山岳会が管理している所が多い。資材の提供は受けても殆どはボランティア作業。資金が十分でない中で行われている。このような状況はいいのかと言うのが問題意識としてあり、そこを何とかしなければならぬだろう。登山道や小屋の管理の情報交換会を開催したり、登山道の補修勉強会をやったり割と進みつつある。トイレもその中で一緒にやっていきたいと思う。

愛甲（山のトイレを考える会）…美瑛富士で心配しているのは、我々市民とか登山者がやることと、国立公園の管理者、施設設置者との役割分担をどうするのか考えなければならない。何でも市民がやりますともいえないし、全て国がやりますと言う訳にもいかない。大きい物を作ったり、仕組みを作る行政、そこを利用する登山者は何らかの負担をし、手伝いとか、自分たちが自然に負荷を与えているお返しを行動で示すことが必要と思う。

岩村（山のトイレを考える会）…早池峰、携帯トイレの投げ捨てはないか？

菅沼（早ゴミ）…投げ捨てはない。今まで便座に直接排泄されたのが2件。野外排泄は散見される。これからの課題。

愛甲（山のトイレを考える会）…山岳会員の方も必ずしも携帯トイレを使っている人ばかりでないと思う。山岳会の影響力は大きい。美瑛富士の取り組みを機会に、山岳会員や未組織登山者へ使い方も含めて、研修をしたり、山開きの手伝いをしたりして、伝えていっていただきたい。

（文責：山のトイレを考える会 仲俣）